

イチゴ品種「みおしずく」の 安定生産と面積拡大

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

卸売市場において高値で取引されるには、12月上旬から規格に沿った品質の確保と安定的な出荷が重要になります。

令和6年は、既存と新規の生産者の計17名が5,300㎡で栽培に取り組み、当センターでは栽培指針に基づいた管理が実践されるよう支援しました。

【普及活動の内容】

(1) 生育や気象に応じた栽培管理技術の習得による安定生産

12月上旬からの本格的な出荷を目指し、育苗開始時期から生産者のハウスを巡回し、その時期ごとの栽培ポイントを助言・指導しました。

夏季の高温に伴う障害(ランナーが発生しにくい、花芽分化が遅れる等)で、栽培管理に苦慮することが多かったため、現地指導では、高温時期の灌水と施肥管理、特に、収量を確保するため「開花状況を確認して養液濃度を変更すること」に重点をおいて助言しました。

また、「湖北苺出荷協議会」の集合研修会(3回開催)でも栽培管理のポイントについて説明を行いました。

(2) 生産・出荷にかかる説明会の開催

通常湖北苺出荷協議会の研修会に加え、令和7年の新規生産者に対して「生産・出荷に関する説明会」を開催し、出荷規格の統一と周知、補助事業の活用や種苗の申し込みについて説明し、作付け推進を行いました。

【普及活動の成果】

夏季高温条件下での育苗でしたが、遮光や換気対策を確実に実施され、大半の生産者で必要な苗数が確保できました。定植後も栽培管理が徹底され、高温による花芽分化の遅れを取り戻し12月上旬から収穫が始まりました。また、5名が新規に栽培されることとなり、栽培面積は約5,300㎡から9,000㎡にまで拡大する予定です。



写真1 カラーチャートで果実の着色を確認するように指導

◎対象者の意見

生産から販売まで色々と御助言いただきありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。(湖北苺出荷協議会長)